

平成23年度受賞パンフレット



“往来”と“all right”

—都市と農山漁村の共生・対流表彰事業—

第9回 オーライ!ニッポン大賞



第9回 オーライ! ニッポン大賞 講評

第9回を迎えました本表彰事業は今年度、全国より96件の応募を頂くことができ、大変感謝しております。ご応募を頂きました内容は、どの取組も日々のご努力とご尽力で実績を重ねられているものでした。過疎化、高齢化が進む中山間地域において、地域住民の皆様の知恵と力を結集して取り組む集落活性化の取組、大学生や若者が時代のニーズをキャッチして新しい交流の形を作り出している取組、企業と農山漁村地域との交流を契機にビジネス展開を行っている取組など、1つ1つの内容がとても深く充実しており、「都市と農山漁村の共生・対流」（人・もの・情報の往来）が、確実に広がっていることを実感しております。

具体的には、農林漁業や地域の生活・文化の体験を通じて農山漁村地域の魅力を伝えて交流人口を増やす活動、地域の産物を活用した商品開発・販売することで地域経済や定住促進に寄与する活動、学生達が農山漁村地域と協働して課題解決を行うことでお互いを高め合う活動、様々な主体と連携した交流から集落活動のお手伝いや耕作放棄解消等へ展開する活動など、都市農山漁村交流活動を出発点として、地域への経済的効果・社会的効果に波及する事例が年々増えているように思います。

さらに、今年度も都市と農山漁村の共生・対流の観点において、類似性の高いと思われる他団体主催の表彰事業等と連携し、それぞれに特徴のある優良な事例をご推薦いただき、オーライ!ニッポンの推進に拍車をかけることが出来ましたことを、この場を借りて感謝申し上げます。

応募内容は全てが大変優れており、審査委員会では、ご応募を頂きました皆様の取り組まれる活動に対して、深い敬意を払いながら、審査にあたりました。

各賞の選定につきましては、審査基準（*）に基づき、審査委員会において、活発な意見が交わされ、選考は大変な作業となりましたが、熱心な協議の結果、オーライ!ニッポン大賞グランプリ（内閣総理大臣賞）、オーライ!ニッポン大賞、審査委員長賞、ライフスタイル賞並びに、オーライ!ニッポン フレンドシップ大賞、フレンドシップ賞、計18件を選定いたしました。

結果としては、今年度のグランプリは、旧新治村の時代から、「全村公園化構想」として農業と観光を結んだ体験型農村観光に取り組み、分散型の交流拠点施設の整備、景観条例の制定による農村景観の保全、地域農業の振興などの活動は27年目を迎え、年間交流人口40万人が訪れる農業観光地として実績を積んでいる「財団法人新治農村公園公社」（群馬県みなかみ町）が選ばれました。その他の入賞団体も、都市部と農山漁村が密接に連携した取組内容は、都市と農山漁村の共生・対流推進の良いモデルとなるとともに、今後ますますの発展が期待されております。

最後に、応募頂きました全ての内容は、全国の先導的事例として、これからの活動の展開も大いに期待できるものと確信しており、今後も自信をもって活動頂きたいと思っております。

審査委員一同、応募頂きました皆様の今後より一層のご活躍とご健勝を祈念しますとともに、本表彰事業への再度のチャレンジを期待しております。

平成24年3月8日

オーライ!ニッポン大賞審査委員会

会長 安田 喜憲

（*）オーライ!ニッポン大賞 審査基準

- ・新規性（新たなライフスタイルの提案、普及に関する取り組みであること）
- ・継続性（活動に多様な主体が参加・連携し、継続的な活動実績があること）
- ・モデル性（他地域への波及効果が期待できること）
- ・独自性（地域固有の資源や個性を十分に活用し、オリジナリティがあること）
- ・効果性（経済効果・社会的効果等が生まれており、持続して発現すると見込まれること）

「第9回オーライ！ニッポン大賞」 平成23年度選定 18事例 位置図

オーライ！ニッポン大賞グランプリ

- 1 群馬県みなかみ町
(財)新治農村公園公社

オーライ！ニッポン大賞

- 2 東京都港区
東京海洋大学
産学・地域連携推進機構
- 3 岐阜県中津川市
かしも木匠塾
- 4 沖縄県伊江村
(社)伊江島観光協会

オーライ！ニッポン大賞審査委員長賞

- 5 青森県大鰐町
OH!! 鰐 元気隊
- 6 岩手県遠野市
NPO 遠野まごころネット
- 7 山形県川西町
東沢地区協働のまちづくり
推進会議
- 8 東京都千代田区
三菱地所株式会社
- 9 島根県浜田市
島根県立浜田水産高等学校
- 10 鹿児島県霧島市
NPO 霧島食育研究会

オーライ！ニッポン フレンドシップ大賞

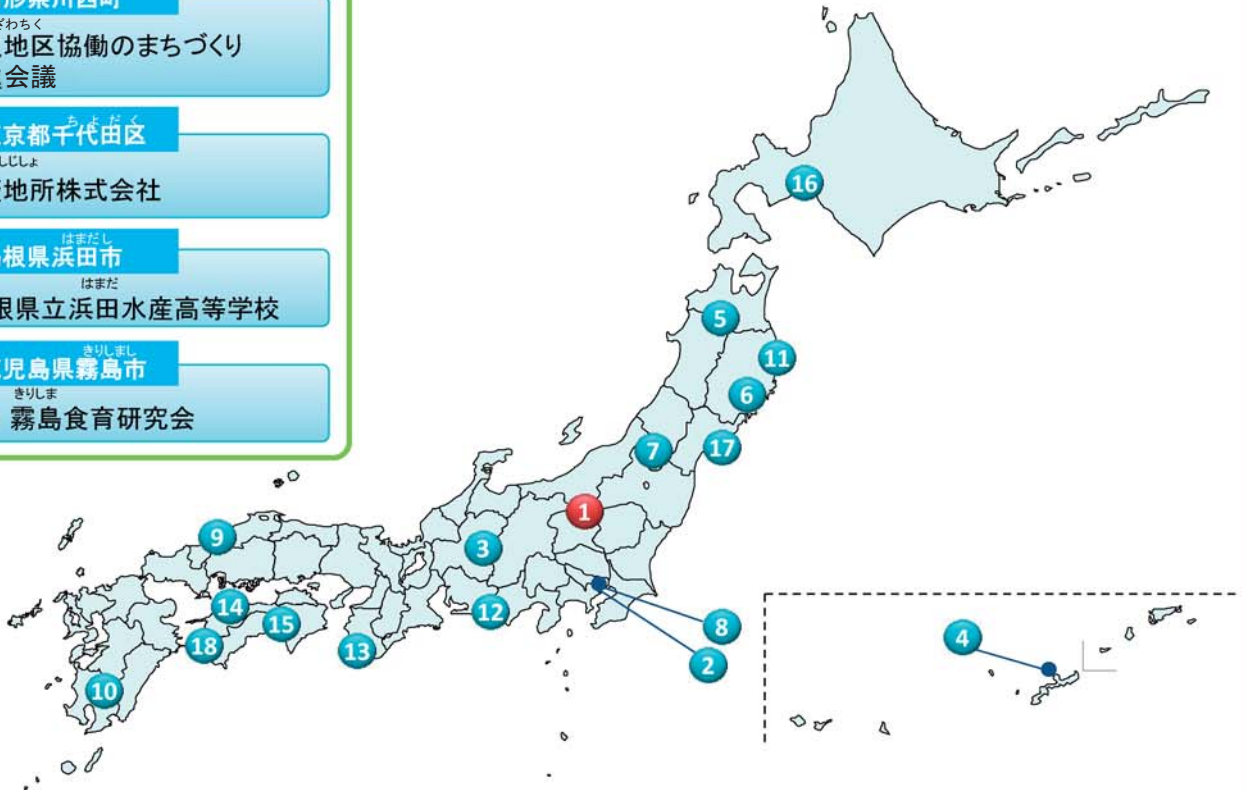
- 11 岩手県田野畑村
NPO 体験村・たのはたネットワーク

オーライ！ニッポン フレンドシップ賞

- 12 静岡県浜松市
みやこだ自然学校の会
- 13 和歌山県白浜町
(社)南紀州交流公社
- 14 愛媛県松山市
愛媛大学
- 15 高知県香美市
高知工科大学

ライフスタイル賞

- 16 北海道千歳市
小栗 美恵さん
- 17 宮城県石巻市
桶谷 敦さん
- 18 愛媛県愛南町
前田 アイ子さん



オーライ!ニッポン大賞グランプリ

にい はる のう そん こう えん こう しゃ
財団法人 新治農村公園公社 (群馬県みなかみ町)

内閣総理大臣賞

農山漁村イキキ実践部門



■応募団体等の概要

活動年数：27年
活動日数：おおよそ365日
活動拠点施設：たくみの里豊楽館（総合施設）遊神館（日帰り温泉）桃李館（フルーツ農園）
活動エリア：みなかみ町新治地区全般
年間の交流人口：おおよそ 40万人

■PRコメント

たくみの里事業は、コンセプトが自然環境の保全と体験活動であり、農村地域4集落にある、歴史文化、伝統手工芸、食文化を、そこに住んでいる人材を活用した農村と都市住民の交流の場事業であります。田舎の原風景の中に点在する文化財を訪ね、又わら細工や竹細工などの体験工房めぐりに歓声を上げる、小学生や若い女性のグループそして新鮮な野菜、果物を買求める観光客と生産者の、にこやかな対話風景など様々な交流の拠点となっています。特に24箇所の体験工房はリピーターが多く人気のスポットであります。

■応募の概要

（財）新治農村公園公社は、平成6年に設立され、旧新治村の地域づくり計画「全村公園化構想」に基づき地域の主産業である農業と観光を結びつけた地域活性化として取り組んだ都市農村交流事業「たくみの里」を担っている団体で、「自然景観の保全と体験」コンセプトに、体験施設を各集落に配置する分散型施設づくりを行い、広く農村空間の景観を守ると同時に集落全域に誘客する効果を生み出している。

みなかみ町は群馬県の最北端に位置し、首都圏からも160kmという近い距離にあることから、昭和50年頃までは農業と観光の村（旧新治村）として約100万人の観光入込客があったが、大規模開発や高速道路の開通等により、主産業である農業や養蚕が衰退の一途をたどる中、美しい農村景観を保全するには、しっかりとした農業経営が不可欠



であるということから、「たくみの里」づくり事業を開始。歴史文化の保全と伝承、伝統手工芸文化の伝承と体験、食文化の伝承と開発、高齢者の生きがい事業を基本理念に事業化を行った。農村集落に残る歴史文化財やわら細工や竹細工、伝統工芸等の技を持つ人々を活用した体験施設を各集落に配置し、現在は様々な技を持った匠が定住し、24の異業種工房が交流の拠点となって、体験型農村観光を実現している。また群馬県内町村初の景観条例を制定し、「建物事前協議色彩看板の規制」など農村景観保全に取り組んでいる。高齢者農業の多品目少量生産を含む地域農業の振興として、「年金プラス60万円」を目標に、農産物販売所「豊楽館」を設立。農家約400戸参加しており生きがいを見つけて元気になった農家も多い。その他、利子補給条例を制定し、地域内にある民間の食堂も支援。関東を中心とした小中学生の体験学習の場としても活用されている。



旧新治村の時代から、「全村公園化構想」として農業と観光を結んだ体験型農村観光に取り組み、分散型の交流拠点施設の整備、景観条例の制定による農村景観の保全、地域農業の振興などの活動は27年目を迎え、年間の売上約3億4400万円、年間交流人口40万人が訪れる群馬県最大の農業観光地となるなど確実に実績を積んでいる点が評価されました。

オーライ!ニッポン大賞

とうきょう かいよう だいがく
東京海洋大学

さんがく ちいきれんけいすいしんきこう
産学・地域連携推進機構

とうきょうとみなとく
(東京都港区)



■応募団体等の概要

活動年数：6年

活動日数：おおよそ60日

活動拠点施設：東京海洋大学品川キャンパス（港区）、マルシェ・デ・ギンザ（中央区）

活動エリア：全国の水産都市と東京首都圏を結ぶ。参加はこれまで21カ所。

年間の交流人口：水産都市フェア500名、ふるさと食材セミナー150名

■PRコメント

私たちの活動は、地方産品を都市での消費に繋げる『地産都消』です。これは地方の産品というシーズと都市の消費ニーズを結びつける新たなマッチングです。大学の「知」と大都会の中心にある「地」を使い、連携先のネットワークを活用します。本活動には現在、大学独自の「水産都市フェア」（首都圏住民対象）と（株）ぐるなびとの連携事業である「ふるさと食材活用セミナー」（首都圏飲食店対象）のコンテンツがあり、これによって地方の一次産業の活性化に対して首都圏からエールを送ります。

■応募の概要

食・水産・海洋の産業分野に特化した技術相談のワンストップ窓口をめざし、産学・地域と大学等研究機関の出会いの場として、水産海洋プラットフォーム事業を推進（文部科学省「大学等産学官連携自立化促進プログラム」の一環）。「海の相談室」には全国からの技術相談が寄せられる中、地域産品の課題に応えるため、水産資源を中心とした地域産品を首都圏の消費に繋げる「地産都消事業」として、「水産都市フェア」と、「ふるさと食材活用セミナー」を活動の柱として地域振興・六次産業化支援を行っている。

「水産都市フェア」は、地域からの販路拡大に関する相談をきっかけに、東京海洋大学の大学祭「海鷹祭」に、全国から毎年5店程度が出店し、産地と消費地が直接顔を合わせる場を設けることで、生産者は消費者ニーズを把握し、消費者は高品質な地域産品を入手できる機会を創出している。平成18年からこれまで、岩手県久慈市、山田町、宮城県気仙沼市等の12都市が参加。本フェアでの課題発見を



きっかけに、販売戦略の練直しや地域産品の普及活動支援制度が拡充される等、更なる販路拡大の契機となっている。平成21年度より、（株）ぐる



なびとの共同研究事業で「地域産品メニュー開発セミナー」を開催。首都圏の飲食店シェフに地域の水産・農産物を3～5品紹介し、それらを活用した新メニューを開発して参加者にレシピを公開することで地域産品の消費拡大を促すとともに、飲食店の独自性の創出に繋げている。自治体・生産者は産品提案・紹介、ぐるなびは加盟飲食店ネットワークをベースにメニュー開発シェフの選定をはじめとするセミナー本体の開催、シェフは産品の評価とメニューの開発、海洋大学は特色ある産地の開拓、連絡調整、資料作成等と役割を分担し、地域になるべく負担をかけない方法で2年間に8回開催し、紹介された産品は27品、開発レシピは24品。平成23年度からは、新たに「ふるさと食材活用セミナー」と改称し、シェフや料理人のふるさと意識にも着目して、人的にも都市と地方を結びつける事業として継続している。

都市のチカラ部門

東京と漁村を結ぶ取組は、水産物に特化した研究開発と発表の場が充実、また産学・地域・大学等研究機関が役割を分担して連携しつつ消費拡大を図る取組は特徴的です。地産都消へ目を向け、水産業の6次産業化への今後の展開も大きく期待できる点が評価されました。

オーライ!ニッポン大賞

かしも木匠塾

ぎふけんかつがわし
(岐阜県中津川市加子母)



■応募団体等の概要

活動年数：21年

活動日数：おおよそ20日

活動拠点施設：岐阜県中津川市加子母

活動エリア：岐阜県中津川市加子母

年間の交流人口：おおよそ 250名

■PRコメント

建築を学ぶ大学生が、毎年夏にサマースクールとして伝統的な在来軸組み工法の木造建築を学ぶとともに、地元の方のご要望に応え、バス停や小屋などを大工さんに様々なことを教えてもらいながら、学生主体で建物のデザインや図面、施工まで全て行うものです。また2週間を過ごす間、団体生活で、自炊や洗濯をし、地元の方と交流し豊かな自然の中で木について学んでいます！

■応募の概要

かしも木匠塾は、建築を学ぶ学生が夏休み期間等を活用して、地元の大工さんや職人さんに伝統木材建築の知識や技術を教わっている。地域から依頼される木造建築物を自分達で企画・設計・施工して1棟を作り上げながら、木造建築のノウハウを学ぶ。平成3年に岐阜県高根村で始まった本活動は、平成7年度より岐阜県加子母村（現在は中津川市）に拠点を移し、学生の建築知識・技術の向上、山村・林業の振興、技術の伝承を目的に活動。この取組が派生し、現在全国8か所で木匠塾の活動が行われている。

加子母は裏木曾とも呼ばれ、伊勢神宮の遷宮材や世界遺産である姫路城の心柱に使用され古くから良質な木材が採れるなど森林資源は豊富で、建設業や林業が盛んな地域である。かしも木匠塾は、千葉大学、立命館大学、東洋大学、京都造形芸術大学、京都大学、滋賀県立大学の6大学のメンバーで構成しており、全国から毎年200名近い学生が参



加して技術を習得している。建築の活動以外にも、地域での交流イベントの企画や地元の行事への参加、農作業の収穫体験等、地域の人々との交流も多く、加子母を第二の故郷として再訪したり、就職した学生もいる。組織運営は、上級生から下級生へ受け継がれ、時代の変化で活動内容も変わらざるを得ない状況の中、地域と学生が協力し合って乗り越えている。平成23年度は、これまでの活動とは違い、構成する6大学が合同で、空き家改修作業を実施。慣れない作業の中、行政、OB、工務店、地域が一体となって協力し、学生は叱咤激励を受けながら、参加した学生全員が同じ目標を持って力を合わせて完成させた。このような活動の内容をシンポジウムで発表したり、NHKのニュースで取り上げられ、本取組を通じて、全国に伝統木材建築の情報や、現在の森林の状況についての情報発信に繋がっている。



学生たちの木造建築の勉強を、山村及び林業の振興、技術の伝承に結び付け、地域の必要な建物を自分たちの企画・設計・施工で作り上げ、そして使ってもらおうというかなり実践的な取組であり、組織運営も受け継ぎながら21年目を迎え、現在では同様の取組が全国8か所で行われるなど、活動のすそ野の広がり、林業の振興につながる点が評価されました。

オーライ!ニッポン大賞

しゃだんほうじん い え じまかんこうきょうかい
社団法人伊江島観光協会

おきなわけん い え そん
(沖縄県伊江村)



本村は、教育環境として中学校までしかないために、進学する者にとっては、親元を離れて本島内で生活する事になる。その為これまで使用していた子ども部屋が空く事になり、どうにか活用できないかと話題に上り、長年懸案となっていた滞在型観光への利用、日帰りの修学旅行から宿泊体験への活用方法が協議された。そして、平成15年度に実験事業として4校358名の受入れからこの民泊事業がはじまった。

■応募の概要

従来の日帰り観光から「体験滞在型」の修学旅行の受入要請を受け、民泊事業の受入体制を整備。平成16年に県の事業を活用して、農業・漁業・商業等受入家族の家業体験を中心とした体験プログラムで受入を開始。「ヒューマンツーリズム」をキャッチフレーズに、高齢者を始め島の人々の豊かな知識や技能を資源に、生涯現役のマンパワーを活かしている。

沖縄本島北部、本部半島の北西約9kmに浮かぶ美しい海に囲まれた伊江島において、伊江島観光協会が民泊事業を推進。サトウキビの植え付け、黒糖づくり、郷土のお菓子づくりや養殖漁業でのエサやり等、離島の特性を生かした家業体験メニューを中心に、1泊2日(家業体験+民家体験)、2泊3日(家業体験+民家体験+民宿・ホテル泊)、



■応募団体等の概要

活動年数：9年(前身活動25年)
活動日数：おおよそ305日
活動拠点施設：伊江島はにくすに施設
活動エリア：伊江村内
年間の交流人口：おおよそ170校22,754名

■PRコメント

(社)伊江島観光協会は、沖縄本島北部の本部半島北西9kmに位置するピーナッツ型をした島で、周囲22.4km一島一村の伊江村で観光振興により地域活性化に取り組んでいる組織である。特に(社)伊江島観光協会民泊部会の129軒で「ヒューマンツーリズム」をキャッチフレーズに村ぐるみで都市との交流による地域経済の活性化を推進中である。

日帰り(家業体験のみ)の3コースを設定して受け入れている。「おかえりなさい」で受け入れた修学旅行生は、島内滞在中は家族の一員として生活を共にし、「いってらっしゃい」と送り出し、第2の古里としていつまでも親しめるように接している。教育現場に求められる情操教育



を目的に、安全安心を前提とした水上安全法救助員講習会、観光バリアフリー接客スキルアップ、外国人観光客基礎研修等、意識高揚の各種研修会を開催して質の向上を図っている。また新たな体験メニューとして、伊江漁港観光部会によるサバニ(沖縄の競艇)体験メニューや、畜産農家と連携した乗馬体験メニューの開発を支援。民泊事業の受入民家129軒となり、受入民家の間での連携も図られ、高齢者の孤独の解消など本事業の及ぼす効果は大きい。民泊事業では、商店街での買い物や地元産物の消費など島の経済にも大きく貢献し、年間170校約2万3千人(平成23年実績)を受け入れ、島全体では約2億円産業となっている。

「ヒューマンツーリズム」をコンセプトに、第2の古里づくりの発想と精神がツアーの内容に生きています。体験滞在型の修学旅行等の受入を中心として、地元の高齢者の生きがいづくり、孤独解消など地域が抱える課題の解消にも繋げながら2億円産業を生み出すなど、過疎の離島に活気を作り出している点が評価されました。